

恵泉女学園 大学報

Keisen University
2007.11

① 学園ニュース

園芸GP

考える葦

② 恵泉女学園生

③ 海外研修

長期フィールドスタディ

④ 行事報告

クリスマスツリー点火式

就職状況

⑤ 恵泉トピックス

恵泉女学園大学大学院
国際シンポジウム

「いのちの文化」
を考える

11/10(土) 13:30~16:30

J202教室

恵泉女学園大学
特色GP体験学習
国際シンポジウム

「海外体験学習におけ
る受入側のインパクト」

11/11(日) 13:00~17:00

J202教室

11/10(土) 11(日)
第20回多摩フェスティバル
テーマ「万華鏡～a precious bouquet～」



平和をめざす女性の大学

皆さん方は、この恵泉女学園大学において、学園創立者河井道先生の建学の精神である三つの教育の柱、即ち「聖書」「国際」「園芸」を学ぶことを通し、人生の最も大切な人間形成の時を豊かに充実させて過ごしつつあると思います。

私は、学長に就任して以来、来年20年を迎える大学の卒業生を含む80年の歴史を持つ恵泉女学園の同窓生の皆さんにお目にかかる機会がありました。

北は北海道の札幌から、南は沖縄の那覇、東は太平洋を渡ってアメリカの西海岸のカリフォルニアまで、各地でお会いした同窓生の皆さん方が、それぞれ地域に密着して、自立した生活を築かれておられました。

恵泉らしい明るく楽しいネットワークの中で、それぞれ個性豊かな「光を輝かせ」て、恵泉で学んだ、希望ある未来へと歩み続けておられるありさまをまのあたりにして感動しました。

恵泉女学園の創立者・河井道先生がお書きになられた「スライディング・ドア」という

御著書があります。この本は、恵泉に学ぶものにとっての必読の書ですが、その中で、先生は「正義、真理を探究する姿勢、偏見のない、広い心は全ての人格の土台とならなければならない」と述べておられます。

この、人格の土台の形成こそは真の平和の基礎であり、恵泉女学園大学の理念でもある「平和をめざす女性の大学」の根底にある考えなのです。

恵泉女学園大学という素晴らしい学び舎で学んでいる皆さんのお一人ひとりが、神の豊かなお恵みの

もとに、御家族の方々に支えられた学園生活を大事にし、教職員ともども、希望ある未来に向けて積極的、行動的に、そして着実に歩んで行こうではありませんか。



恵泉女学園大学・学長
木村利人

2年連続の特色GP

「特色ある大学教育支援プログラム」（通称：特色GP）

これは各大学で実績を上げている教育方法や教育課程の工夫改善などの中で特色ある優れた取組を選定して紹介することで、大学教育の質を向上させることを目的として、2003年度から文部科学省によって実施されている教育支援事業です。

昨年度はフィールドスタディを中心とした取組「専門性をもった教養教育としての体験学習」で申請件数331件の中から他の47件の取組とともに、本年度は「生活園芸Ⅰ」を核にした取組「教養教育としての生活園芸」で331件の中から他の51件の取組とともに2年連続で選定されました。



生活園芸の取組に対する選定理由は以下のとおりです。

本取組は、恵泉女学園大学の教育理念の一つである「園芸」の精神の習得を目指した教養教育科目「生活園芸Ⅰ」を1年次必修の共通科目として設置するとともに、その具体的展開と関連の授業科目を絡ませ「持続可能な環境と社会を担う市民」を育成しようとする試みです。

特に「生活園芸Ⅰ」は本学所有の教育農場での体験授業（1988年以来）として展開され、効果を高めるための数々の工夫も凝らされており、本学の特性を活かしたユニークな取組といえます。また、「生活園芸Ⅰ」及び関連の授業科目の授業評価も高く、授業の成果が授業以外の活動にも波及し、大学での学びの体験が学生自身の身近な問題の解決や生活向上につながっている点に大きな特色があります。

本取組は「園芸」という特殊な分野の活動であり、直接には他大学の参考になりにくい面はありますが、「副専攻科目」への発展性や、「人間環境学科」の専門教育への継承など、取組の将来性も明示されており、高く評価できます。今後の計画が着実に遂行されることを期待します。

考 え る 葦



『初心』

人間社会学部専任講師

李 泳采



初心を忘れないという言葉がある。韓国の軍隊では入隊6ヶ月目に始めて定期休暇を得て外の世界に出される。おそらく6ヶ月経てば、今までとはまったく別世界の軍隊生活にも慣れて、軍人として外の社会に出てもいいと思われるのであろう。基本的姿勢を心得えてからこそ「真の初心」は生まれてくるものかも知れない。

恵泉に来てから6ヶ月。由緒ある教育

伝統を学ぶには到底及ばない短い期間だが、「初心」は身に付いてきた気がする。聖書、国際、園芸の三つの柱で行われる人間的な教育。生命を愛する女性教育で次世代の平和を作る道程に一緒に立っていることに自負心を感じる。

「もう一つの世界」の萌芽を感じた貴重な「初心」である。

（2007年秋「国際人権論」ほか担当）



大学生活が半年過ぎて

日本語日本文学科1年
トミカワ マイザ K.K.

「あれや、あれや」と言う間に、半年が過ぎていました。「大学生活は短い」とはよく言いますが、実際に経験してみると、あっという間に秋学期です。時間は、これほど早く過ぎてしまうのか、と驚きを隠せません。しかし、春学期は内容の濃い、非常に充実した日々だったと感じています。

正直に言うと、最初はとても不安でした。大学生としてやって

いけるのだろうか、と心配だったのです。ですが、大学での生活は、高校での生活とは、まるで違いました。大学は、高校での「憶えること」を目的とした学習ではなく、「考えること」を楽しみながら実践できる場所です。好奇心旺盛な私にとって、この環境は自分を高めることのできる場だと気が付きました。なにより、友人たち、教職員の方々との出会いが、私を一回り成長させたような気がします。

大学生活で大切なのは、好奇心を持って行動することだと思います。そうすれば、自ずと道は開けてくると信じています。

サークル紹介「華道部」

人間環境学科3年 華道部部长
佐藤玲奈

大学生で部活動続ける人が少ないのは何故?遊びたい、バイトやサークル、やりたい事が多いからでしょうか?それに部活は忙しい、大変そう…私も最初はそう思っていました。しかし、華道部の多くの部員はバイトもサークル活動もしています。

活動は月に2回、お稽古に出席して学ぶことで御免状ももらえ、5月と11月の学園祭では、発表する場として作品の展

示ができます。去年と今年は銀座松坂屋という大きな舞台での出展もしています。これは何年も華道を習っている人でも出展が難しい展示会です。多くの人に見てもらおうという責任があり、思っているように創れず、自信をなくしそうにもなりました。しかし出展し終わった後の達成感は何とも言えない気持ち良さがありました。

部活動続けることは、充実した大学生活を送れる一つの手段だと感じています。



日本語教育実習報告

日本文化学科4年(日本語教員養成課程主専攻)
沈 紅梅

私の実習先はYWCAという中国帰国者の日本語教室で、ここで私はたくさんの帰国者たちに会うことができ、「これから立派な日本人として生きたい」と一生懸命日本語を勉強している姿に感動しました。初めて留学生として経験する実習は不安だらけでした。しかし、学習

者たちは私を喜んで受け入れ、とてもアットホームな雰囲気でした。見学中は意味の伝わらない部分を中国語で説明してあげたり、日本の文化を教えたり、とても楽しかったです。

本番当日は緊張している私をみて、「先生、協力するから大丈夫です」と学習者が励ましてくれ、授業が終わった後は「先生が授業すると安心できますね」とみんなが言ってくれてとてもうれしかったです。

私は学習者に励まされ、助けられ、無事に実習を終えることができました。教えるにいったことよりたくさんのことを教えてもらい、私自身も成長しました。日本語の教師としてより正しい日本語を話すのは大切だということを改めて認識しました。

今回の実習は大学生活の中で一番の思い出となり、ぜひこの経験を今後の人生や仕事に生かして生きたいと思いました。

海外研修

夏期イギリス研修報告

国際社会学科3年
鈴木愛美

私は、英語の上達と何かにチャレンジしたいという思いで、イギリスの語学研修に参加しました。ホームステイでは初め「ホストマザーは、クールで怖そう。大丈夫かな」と心配でしたが、笑顔と数少ないボキャブラリーとジェスチャーで会話に挑戦しました。すると、次第に笑いが増え、「あなたはとてもフレンドリーね!」とほめていただきました。そのとき、環境をよくするのも悪くするのも自分次第なのだと思います。また、インターンシップで選んだ老人ホームでも、ご老人との出会いを通して、たくさんの心が温くなる経験をしました。この研修期間中、今の私の英語力では言いたいことも言えず、歯がゆい思いを何度もしました。もっと英語が上手くなれば、楽しい時間ももっと増えるはず。この経験を大切に、今後も本気で英語の勉強をしようと思っています。

アメリカ短期FSで体験したこと
—アラブ系イスラム教徒との対話を通じて—英米文化学科4年
澤田英公子

私は夏休みの9月1日より8日間、アメリカ・ニューヨークの短期FSに参加しました。とくに印象に残ったのは、ブルックリンのベイリッジにあるアラブ系イスラム教徒のモスクを訪問し、モスクの代表者の方からお話を伺ったことです。9・11のテロ事件以後に、イスラム教徒というだけで、周囲の人々から、テロの犯人と同じで皆「おかしい奴らだ」という目で見られ、辛い思いをしていることを知りました。アメリカは多文化社会なので、異なる民族や信仰をもった人々が触れ合う以上、テロ事件のようなことがきっかけで様々な対立が起きてしまうということを知り、多文化共生の難しさについて考えさせられました。

2007年度夏期海外プログラム

プログラム名	期間	行先	参加学生数
バングラデシュFS	7/24～8/2	バングラデシュ	11
インドネシアFS	8/28～9/8	インドネシア	7
アメリカFS	9/1～9/8	ニューヨーク	12
ドイツ・オランダFS	8/29～9/7	ドイツ・オランダ	6
英国語学研修	8/26～9/17	イギリス/コッツウォルズ	15
釜山語学・文化研修	7/29～8/27	韓国 新羅大学校	8

長期フィールドスタディ

「一ヶ月が過ぎて」

平田佳巳

第8回長期FSに、アシスタントとして参加している恵泉女学園大学平和研究所研究生の平田佳巳さんからレポートが届きました。平田さんは昨年の長期FSの修了生で、今年3月に国際社会文化学科を卒業しました。

「長期FSにアシスタントとして同行し、一ヶ月が経ちました。タイに着いて間もない頃はホームシックになりかけたり、自分の部屋番号をタイ語で言うのも一苦労というタイ語力で、今後生活をしていけるのかと、とても心配をしてしまいました。しかしそんな心配をよそに、学生達はどんどんたくましくなっていき、自分の意思をはっきりと主張できるようになったり、これが本来



の姿なのかと思わせるくらい明るくなったり、それぞれの成長が感じられます。タイ語を使うのがとても楽しいようで、辞書を片手に会話をしている姿も見受けられます。楽しみながら努力をしているので、成長が早いのではないかと感じています。長期FSは、自分が関心を持ったイシューを深めると共に、その環境に適応しながら自分自身と向き合い、見つめ直すというプログラムです。あと数週間で楽しかった共同生活も終わり、体験学習が始まります。楽しいことや辛いことがたくさんあることと思いますが、日本から見守ってくださっているご両親や先生方に支えられながら、それぞれの体験学習が充実したものになることを期待しています。」

第8回長期タイフィールドスタディ

期 間 2007年8月24日～2008年1月31日

参加学生 10名

主なスケジュール

8/28～10月中旬 チェンマイ大学でのタイ語ほか、講義とフィールドトリップ

10月下旬～1月中旬 NGO体験学習、中間報告会

1月下旬 最終報告会、レポート提出

クリスマスツリーと賛美礼拝

恵泉では、クリスマスの本当の意味を皆と分かち合うために、多くの教職員・学生と共に創りあげています。まず、アドヴェントの到来を告げる礼拝、11月28日(水)はクリスマスツリー点灯式。キャンパスのもみの木の電飾の点灯の瞬間を共有し、クリスマスを迎える準備が始まります。その後、学内やチャペルは手作りの装飾によって美しく、優しく彩られていきます。巷で賑わっているクリスマスに心を奪われるのではなく、日々のチャペルアワー、そして12月12日(水)のクリスマス賛美礼拝を通し、豊かさ喜びを味わってください。



ちなみにクリスマスツリーの電飾のルーツは、マルティン・ルターだと言われています。彼はクリスマスイブ礼拝の帰り道、森の中で常緑樹の枝の合間にまばゆく輝く無数の星を見ました。その美しさに心打たれ、それを子どもたちのために再現しようと、家の中に木を持ち込み、火を灯したろうそくを枝にくくりつけたそうです。とても温かく、シンプルなものだったことでしょう。ツリーの一番上の星は占星術の学者たちを導いた大切な星です。飾ることをお忘れなく。
(キリスト教センター)



就職状況

秋学期の授業も始まり、3年生の皆さんはいよいよ本格的に就職活動＝就活(シューカツ)に取りかかる時期になりました。就職進路室では、就職ガイダンス、就職対策講座を開講し就職を希望する学生ひとり一人の就職力アップを図ります。また、秋学期後半からは企業の人事担当者を学内に招き「学内企業セミナー」を実施します。社会で求められる力を身につけ、企業情報を収集・分析する、これらを順を追ってこなしていけばきっと満足のいく就活ができます。

2006年度の学内企業セミナー参加企業(抜粋)

みずほフィナンシャルグループ／全日空／三菱東京UFJ銀行／川崎信用金庫／寺田倉庫／みずほインベスターズ証券／新光証券／大同生命／オリックス／ローム／三菱UFJ証券／レリアン／JCB／共栄火災／富士機材／タキヒヨー／映像システム／レナウン／農林中央金庫／三井リース事業／スガツネ工業／ダイキン空調／日東工器

就職ガイダンス —2007年度秋学期—

- 10月4日 ● 業界研究(メーカー編)
- 10月11日 ● 内定報告会1(学校推薦を中心に)
- 10月18日 ● 業界研究(ノン・メーカー編)
- 10月25日 ● 内定報告会2
- 11月8日 ● 履歴書の書き方
- 11月15日 ● エントリーシート講習会1
- 11月22日 ● 就職活動の実際
- 11月29日 ● エントリーシート講習会2
- 12月6日 ● エントリーシート・テスト
- 12月13日 ● 会社選びのポイント
- 12月17日 ● 就職模擬試験
- 12月18日～20日 ● 筆記試験対策集中講座

応援します、就活

たくさんの会社に入社シートを出さないといけない、筆記試験・面接試験に落ちたらどうしよう、そんな心配を、毎年就職活動が現実のものになってくるこの時期に学生たちから聞きます。

でも就職活動ってそんなに苦しくて辛いものなのでしょうか?もちろん楽しいことだなんて先輩達を見てきても言えません。小さい頃「大きくなったら何になりたい?」と聞かれて「花屋さん!」「看護婦(師)さん!」って答えてワクワクした記憶はありませんか?成長につれ当初の夢は変わったかも知れませんが、でも就活の中でこのワクワク感を常に持っていて欲しい。そんな気持ちで就職進路室では、就活中の学生を応援します。いつでも気軽に立ち寄ってください。

(就職進路室)

恵泉トピックス

特別講演会「ベアテさんが夢見た男女平等」

10月13日(土)に、大学J202教室にてベアテ・シロタ・ゴードンさんの講演会が行われ、一般、学生の参加者200名が集まりました。5歳で来日、日本の女性の立場や役割をみて育ったベアテさんは、1945年再来日し、日本の憲法の草案を作ることに関わりました。憲法14・24条をめぐるベアテさんのお話は、最後に「日本の女性の将来は明るい」と励まされるように締め括られました。

「大学教育における海外体験学習の可能性と課題 ～危機管理事例を中心に～」発行

人間社会学部と体験学習GPタスクフォースは、9月に上記を発行しました。この事例集は、昨年特色GPに採用された「専門性を持った教養教育としての体験学習」の一環として実施されている本学のフィールドスタディの危機管理の実例報告を軸に、旅行会社や保険会社、関連機関からの寄稿で構成されています。

避難訓練を実施しました。

「避難訓練です。火災が発生しました。教職員の指示に従って、グラウンドに避難して下さい。」10月10日(水)昼の構内に放送が流れました。この日は、学生と教職員が全員参加の避難訓練を実施。2時限目の終了直前に緊急放送が入り、教室にいた学生は教員の誘導で、図書館や学食、中庭にいた学生も教職員の指示によって、南側のグラウンドに集合、10分間で約900名の避難が終了しました。職員による消火訓練の実施、倉庫の備蓄品の整備なども進めています。

新キャンパスだより

学校法人恵泉女学園の新キャンパスとして、大学隣接地の旧南野高校跡地(41,654㎡)を東京都より取得しました。このキャンパスの利用方法については、大学を中心にして今後検討を進めてまいります。新キャンパスがこれからどのように整備されていくか、毎号お知らせをしていく予定です。

■ 編集後記

生活園芸の授業では、サツマイモの収穫時期です。家に持ち帰ったサツマイモは果たして何に变身したのでしょうか。焼き芋、スイートポテト、てんぷら、大学で採れたので大学イモ?



恵泉女学園大学

〒206-8586 東京都多摩市南野2-10-1

TEL: 042-376-8211 FAX: 042-376-8218

ホームページ <http://www.keisen.jp/univ/>

mobile <http://m.keisen.jp>



秋の花 サルビア・レウカンサ

＊ Salvia leucantha

サルビア・レウカンサは、葉にも花にもピロッド状の毛を持っているので、なんともやさしい肌触り。冬、多摩キャンパスでは地上部は枯れるが、翌春に芽を出す宿根草である。多摩キャンパスでは、1mを越す高さのある花壇材料として重宝している。(園芸準備室)